

ざだんかい

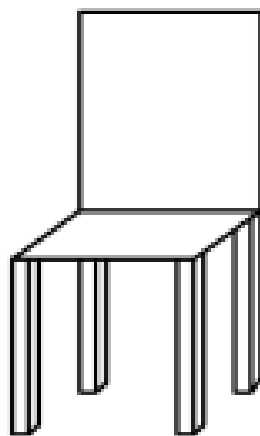
～わたしたちのふくし、これからのふくし～

Vol.8

平成 30 年 1 月 21 日(日)

15 : 30～19 : 00

@海神公民館



本日の問い

続 意思決定支援

について

げすと

佐藤 彰一さん（全国権利擁護支援ネットワーク代表・弁護士）

又村 あおいさん（全国手をつなぐ育成会「手をつなぐ」編集委員）

熊岡 耕一さん（社会福祉法人みずき福祉会理事）

鈴木 美由紀さん（野田芽吹学園施設長）

渋沢 茂さん（長生ひなた所長）

しかい しんこう

橋本 諭（社会福祉法人彩会）

喜本 由美子（NPO法人ラフト）

本日のながれ

※時間はあくまで予定になります。変更もありますので、予めご了承ください。

- 15：30～ はじまり
ざだんかい恒例 橋本諭さんによる余興
- 15：35～ 《佐藤彰一さんのおはなし》
- 16：15～ 休憩（5分）
- 16：20～ グループごとになるために、各自で椅子を動かしてください。
《ちいさくざだんかい》
- 17：30～ 休憩（10分）
- 17：40～ 《 佐藤さん × 又村さん ++ 参加者 》
- 18：50～ まとめ
- 19：00 おわり
※お手数ですが、各自椅子を片付けてからお帰り or 懇親会会場へ移動してください。
※懇親会参加の方は、海神駅 19：05 発 or 19：18 発 or 19：25 発
にお乗りください。
- 19：45～21：45 懇親会 会場：Wine&Tapas Callejero（カジェーロ）
◎船橋市本町 4-41-29 ライオンビル 2F（カラオケの鉄人となり）
◎当日参加も受け付けております。参加希望の方は、喜本まで
お知らせください。

ざだんかいとは。

○「ふくし」という共通項だけを持ち、地域も法人も年齢も経験も職種も超えて、
さまざまな立場のさまざまな人たちが集まる会のこと。

○教えたり教えられたりでもなくて、ひとつの答えを求めるわけでもなくて、
それぞれが誰のためでもなく自らのために過ごすことが目的の会のこと。

○自分たちにとって大切なことを“自分たちの言葉で”語り合い、
そして生まれていくものをまた大切にしていける会のこと。

○でも、堅苦しくなくて、ゆるやかに、じんわりとたのしく過ごす会のこと。

げすと プロフィール&メッセージ

げすと **佐藤 彰一さん**（全国権利擁護支援ネットワーク代表・弁護士・國學院大學教授）

福岡県田川市出身。千葉県船橋市在住。

立命館大学法学研究科、立教大学法学部教授、法政大学法学部教授、法政大学大学院法務研究科教授を経て、2012年より國學院大學法科大学院教授。2000年より弁護士として障がい者とその家族の権利擁護活動に従事しており、全国権利擁護支援ネットワーク代表を務めている。専門は民事訴訟法で、成年後見や虐待防止など、障害者の権利擁護関連の社会活動に広く関わっている。

*メッセージ

当日、お聞きします。

げすと **又村 あおいさん**（全国手をつなぐ育成会「手をつなぐ」編集委員）

昭和48年生まれ。

平成7年に神奈川県平塚市役所入庁。11年度から18年度まで障害福祉課へ在籍。

神奈川県庁（総合政策課）への出向を経て、企画政策課政策担当に所属。

26年度に内閣府（障害者施策担当・障害者制度改革担当室）へ出向し、現在は平塚市福祉総務課地域福祉担当所属。

全国手をつなぐ育成会連合会の政策センター委員、（社）日本発達障害福祉連盟の『JLニュース』編集長、「発達障害白書」編集委員、また、厚生労働科学研究費補助金研究「小児在宅医療の推進に関する研究」構成員、国立成育医療研究センター研修講師、内閣府の障害者差別解消法アドバイザー等

*メッセージ

お久しぶりです。又村です。前回に引き続きで「意思決定支援」をテーマに、皆さまと深遠なる迷宮へ旅立ちたいと思います(笑) 前回の「ざだんかい」では、皆さまからいろいろな視点をいただき、制度屋の又村としては、意思決定支援を制度とか事業とかの枠組みで語って良いものかどうか、珍しくそこそこ本気で悩んだりもしました。とはいえ、又村としては制度以外に話す舌を持っていませんから、今回は佐藤先生に法律のことを教えてもらいながら、制度屋として突っ込みたいと思います(笑) ただ、そのための資料がまだできてない…間に合うのか?! 違う意味で目が離せない!(笑) それでは皆さま、ラビリンスでお会いいたしましょう。お待ちしております。

げすと **熊岡 耕一さん**（社会福祉法人みずき福祉会理事 社会福祉法人さざんか会理事）

1952年 香川県坂出市生まれ

父は電力会社に勤める技術畑の人で、香川県と愛媛県を転勤で行ったり来たり。そのため、私は小学校中学校高校とそれぞれ2校経験した転校生でした。その父もすでに他界。

母は生来、心臓が弱く、入院することが多く、父が帰ってくるまでの間3人兄弟で過ごすことが多かったです。

私の心象風景は、夕方の薄暗い中一人でパジャマを着たまま、庭を見て立っている風景です。

そんな母は私が 29 歳の時に亡くなりました。

私は、もともと理科系志望だったが、その大学を落ち、このまま大学受験することに疑問を感じたこと、早く家を出たかったこと、そして東京に行きたかったこと、それらの気持ちから、浪人一年生の時、選んだのは、少し興味を持ち始めていた福祉が学べる当時専修学校だった夜学の上智社会福祉専門学校でした。その学校で取得できる資格は保母資格のみで、私には、取得困難なものでした。

卒業後は、四国に戻って資格のいない知的障害者の施設に勤めることにしていましたが、卒業できず、そのまま東京で就職することになりました。

23 年間知的障害児入所施設に勤め、7 年間成人施設に、そして成人施設の施設長を 4 年行い、群馬の 1 年間を経て、船橋のさざんか会にお世話になりました。

ずっと知的障害分野で仕事をし、群馬に行くまで 30 年間、入所施設で仕事をさせていただきました。そのため入所施設への思い入れは自分では大きいと思っています。

現在、私は社会福祉法人みずき福祉会と社会福祉法人さざんか会の理事を行っています。

2 人の息子は知的障害関係の仕事をしており、娘は病院で看護師をしています。

そして、児童施設で同僚でもあった妻は数年前に他界しました。

*メッセージ

「ざだんかい」への参加もすでに 8 回目、皆勤ですが、どれほどお役に立てたかという、大変申し訳ない気持ちになってしまいます。テーマは前回に引き続き「意思決定支援」、なかなか難しいテーマ、現場から離れてしまった者にとっては、このような機会でもない限り、考えることすらしない日常です。知的障害者福祉を取り巻く環境が、想像以上に厳しい現在、明るい将来が見いだせるように、皆様方と話し合えたら、という心持で参加させていただきます。

げすと 鈴木 美由紀さん（社会福祉法人野田芽吹会 野田芽吹学園施設長）

経歴 昭和33年5月18日 千葉県野田市生まれ。

市内の小中学校を卒業後、松戸の女子高に通い、初めてボランティアを体験する。高2の時、単純に料理を作ることが好きだったため栄養士になることを夢見ていたが、先生に福祉の方が向いていると言われ、福祉の道に行くことにする。

昭和52年 淑徳大学 社会福祉学部社会福祉学科入学

保育士を目指すのが大学2年生の時、同大学研究生となり障害児教育を学ぶ。

昭和56年 野田芽吹学園職員

空きがなかったので、調理員として働く。この間、調理師免許取得

昭和58年 調理員より支援員へ 平成13年 支援員より事務員へ異動

平成15年 事務長 平成19年 施設長

趣味 書道:筆に墨を付けて白い紙に文字を書いているととても幸せな気分になります。

今年は、年女です。新年会のメッセージで「いっぱいぬくもりと、幸せあふれる年であれ!」と書きました。

生花:花を生けているときの集中した数分間が好きです。

創作料理:コンビニで買った惣菜を自宅の残り物でアレンジし、楽しんでいます。

ピアノ:好きな曲が弾けると楽しいですね。昨年秋、愛知で行われた福祉関係者の全国大会で、野田あすかさんのピアノの曲に感動し、今年は野田あすかさん自作の曲、「哀しみの向こうに」と言う曲を練習しています。曲の流れがとても素直で心地よく、あすかさんの人柄が感じられる曲です。障害があっても前向きに生きるという力強いメッセージに元気をもらって

います。

時々、曲の気持ち良さに酔いすぎて、譜面を全く忘れてしまうのですが、いつか自然な流れで弾くことが出来るようにと日々、奮闘中です。

その他いろいろ…:とにかく何かやっていることが好きというのは変わりません。娘が受験体制に入りました。それに刺激されて今年は何か始めてみようかなと思っています。

*メッセージ

ほぼ毎回参加させていただいております。今回もお声掛けありがとうございます。こんな風にいろいろなところから福祉に関心のある人たちが集まって、話を聞いたり、意見を言ったり出来ることは「とってもいいな。」と思う反面、テーマを頂く度に自分は何をやっていたのだらうと自責の念に駆られます。今回のテーマも「意思決定支援」。入所施設で利用者さんの生活を支援することを仕事にしている私にとってはとても重いテーマで、自分に何が語れるか不安ではありますが、ここは明るく「そうだ、みんなで考えよう。」と思っています。入所施設の在り方について興味のある方は是非、話しかけて下さい。

げすと 渋沢 茂さん（中核地域生活支援センター長生ひなた所長 千葉県社会福祉士会会長）

- 1964年12月7日千葉県市川市生まれ。以後、高座渋谷、菊名と転居。幼少時に覚えていることは、幼稚園の卒業式で泣いたこと、小学1年生の終わりにアパートの屋上で夕陽を見たこと。小学4年～中学1年生は新潟市で暮らす。そのため、雪道を転ばないで歩くのは得意。中学2年から千葉県に。バスケットをしたり、ゲボを吐くまで飲んだり、テスト休みにはいつも麻雀をしていた。大学卒業時、バブル期の就職戦線は息苦しくて福祉な生き方をしようと思った。
- 知的障害を持った子の入所施設で10年弱。入所施設の意義と限界を感じた。障害を持った子どもたちと付き合うのは楽しかった。
- 地域支援の仕事を10年弱。地域で暮らす障害を持った方とご家族の暮らしの困難を痛感した。この頃から多くのご家族から教えていただいたことが地域支援の仕事の原点になっている。
- 様々な方と協働することの必要性を感じて中核センターの仕事を始めた。
- 2015年4月からは、生活困窮の方々の自立相談支援センターを始めた。
- 千葉県社会福祉士会会長、中核センター協議会会長、内閣府障害者差別関係の委員等、色んな役職を背負っていますが、地元の茂原を何より大事に考えたいと思っています。
- 今後の事業展開と生き方について思案中です。

*メッセージ

「意思決定支援」について思うこと。

- ・個々の意思を聞き取ることと、それを如何に具体化するかの課題がある。
- ・前者で最も重視すべきなのは私と彼の関係性。それが一つの物差しとしてあった上でどうするかを考えるのが良い。
- ・後者では仕組みの問題、資源の問題などがある。
- ・今回は時間に間に合うように参加します m(__)m